

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム てんとうむし
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 霧島市
記入者名 (管理者)	山内 いつ代
記入日	平成 20 年 5 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人名「グッドライフ」と「てんとうむし」に込められた思いを事業所独自の理念とし、地域の中で地域の中で地域との関わりを大切にしている内容になっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、管理者は日々の生活の中で、常に理念を意識しながら取り組むようにスタッフに話している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や入居者には、入居時にきちんとホームの理念を説明している。又運営推進会議には地域の代表として地区の民生委員や公民館長、御家族も出席していただきホームの考え方や取り組みを紹介したりしており、地域の方が協力してくださる機会が増えてきている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や近所の商店への買い物で近所の方との交流の機会をもてるように勤めている。普通に畑におられる方と挨拶ができたり、世間話ができたり、近所から農作物や新聞紙等の差し入れがあるのも普通にできている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会や夏祭り等の行事や、週2回のゴミ置き場の掃除のボランティア等、ホーム開設当時から続いている。たまには入居者と一緒農作物を近所に配ったりすることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方からの相談や見学、実習等の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で取り組み自ら評価することで、気づきや反省をすることでスタッフ個々の質の向上がみられ、それによってホーム全体の向上につながると考えており、評価の結果をふまえ、改善すべきところは改善するようにしている。又スタッフも十分意義を理解し積極的に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開いており出席者に報告している。出席できないご家族に対しては郵送し、分かるようにしている。会の中で出た意見や質問に対してはその時点で返答できるものは返答し、できないものは次の会議で返答するようにしている。又、その中で改善すべき点は改善しその結果を報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市長村担当者とは常に相談や報告等で直接出向き会って話すように心がけている。介護相談の実習受け入れの要請をいただいたりし、とてもよい関係が築けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会にはできる限り出席するように心がけている。研修の中でこのような内容の項目もあり以前勤めていた施設で後見人とのやりとりも経験したことがある。今後必要とする方に対しては支援する準備はある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、テレビや新聞で取り上げられた内容について話したりし、いつも行っている何気ない行動も虐待に当たらないかを再確認している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族にきちんと説明し理解をいただいている。今回4月に料金の値上げをお願いしたときも、快く承諾していただき、「これだけでいいの?」と言ってくださるところもありました。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの申し出に対してはきちんと受け止め、家族に報告し話し合うようにしている。その結果に対しては申し送りノートに記載し、スタッフ全員が把握し改善するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急に報告しなければならない事項は電話で取り急ぎ報告し、他については、運営推進会議の中で写真つきで知らせたり、職員の移動もきちんと報告している。会議に出席できない家族には郵送している。又、個々のアルバムがあり面会時に見ていただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているものの、利用されたことは無い。普段は面会があると、経営者や管理者が声を掛け、何か無いかを聞いている。話の中の要望も意見として受け止め大きな問題にならないうちに改善するように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行いその中で意見や要望を聞く機会を設けている。改善できるものは改善し少しでもスタッフが気持ちよく働けるように心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に対してどうすることが最善かを検討し、その結果に対して対応できるように勤めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職しないように勤めているが諸事情で止むを得ない場合もある。利用者にはその都度説明をしている。ケアに支障が無いように勤務表を組み替えたりして、人手が足りないことで利用者が混乱しないようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や郡内が実施している研修に随時参加するようにしている。研修内容や研修の開催場所に応じて参加させるスタッフを決めたりして、なるべく多くの研修に参加できるようにしている。又、無資格者に対しては資格が低料金で取れるところを調べて情報を提供したりして、スタッフの質の向上が図れるように努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区の連絡協議会に入っており管理者は始良・伊佐地区の役員をしている。研修や役員会を通じて他のGHの管理者との交流を図りながら、お互いのホームのスタッフを受け入れたり、自分のホームのスタッフを見学に行ってもらったりして勉強したり、気づいてもらったりできるように努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表の作成時は希望をほぼ100%取り入れ作成している。緊急に休みが必要な場合はスタッフ同士で交代をしてもらったりし、なるべく休みが取れないことへのストレスが生じないようにしている。誕生日にはお祝いとして家族で食事に行くように祝い金を渡したりして気持ちよく働けるように注意しているつもりである。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者、管理者とも夜勤や日勤帯の仕事に入り、共に働くスタッフの状況や勤務態度も把握している。きびしい状況にありながらも今年度は各人の能力に応じて昇給したり、研修についても参加したスタッフには研修費を出したりしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みがあるとホームに来れる方は来て頂いたり、こちらから出向いて話を聞いたりしている。最近のご家族は何箇所も見学されておられ、数箇所のホームを自ら断られたりされておられるご家族もあるので入居にまで至るといことはきちんと家族や本人の思いを聴けて納得のうえ、入居されているのだと思います。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から直接申し込まれることもあるが、ケアマネさんからの申し込みがあり、その時に本人や家族の情報をお伺いすることも多い。きちんと話を伺い双方が納得できるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、ホームの定員の関係で受け入れが困難な時は他のホームの空所状況を問い合わせたり、小規模多機能ホームを紹介したりしている。相談を受けた時点で満床です。とすぐにお断りすることはありません。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り入居前にホームに来て頂いたり、顔見知りの方を紹介したりして不安が少しでも解消できるようにしている。又、聞き取りの際本人の趣味や性格を聞くことによって何が好きなのか、何ができるのかを聞き、強制せずその人を観察するようにし、徐々に交流の場が持てるように努めている。御家族に対しても面会時間を特にもうけずいつでも来て下さるように声掛けしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の持つ能力を発揮できるように、来訪者やホーム内で特技を披露してもらったり、行動障害や急変に対しても大変というよりも、スタッフが勉強させてもらっている。身をもって教えてくれている。と考えている。ホームにとってもうれしいことはお茶を飲みながら、又食事の前皆が揃っているときに報告し一緒に喜んでいる。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	今までの運営推進会議では家族代表として決まった家族に参加していただいていたが、今年からは全家族に会議への出席をお願いしている。その中で各月の報告や色々な出来事を報告し出席できなかった家族に対しては面会時に資料をさしあげたり、遠方の方には郵送したりしてしてお互いが情報の共有ができるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を特に決めていない。来れる時に来ていただくようにしている。本人の子供、孫、ひ孫と大勢で来られお部屋でゆっくりされるところもあります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	保証人の同意があれば外出もできます。面会に関しても制約は無く家族以外の面会でも制限はしてありません。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性の良し悪しを見極めながら食堂の座席を変えたりして、よい関係が保てるようにしている。利用者同士が部屋を歩き来し、一緒に歌を歌ったりしている光景は姿は直接見えない位置にいても、ほほえましくこちらまで楽しく感じるものです。そのような時はそっとしておき、その関わりを大切にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時的な変化については申し送りノートや引継ぎを行い、その人に合わせたケアを行い、長期的な変化については職員会議や担当者会議で検討の上、計画に組み入れている。又、3ヶ月に1回の見直しも行っており、柔軟に対応できている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年の7月で開所して3年を経過した為、通所介護等のサービスができるようになったが、現入居者のレベルの低下で車椅子利用者が多くなり手狭になってきているため現状のGHだけのサービスに留まっている。しかし、物品の注文や介護用品の相談等においてはできる限り対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の身体状況や判断能力に応じて緊急の援助が必要な場合に備えて、近隣の助けがもらえるようお願いしてあったり、介護相談員や民生委員、時には消防の人にも必要に応じて来ていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況に応じて、担当のケアマネさんを通して事業所のスタッフと話し合うことがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただきホームの中身もよく理解していただいている。必要があればいつでも相談できる関係にあり、その時には、利用したい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医を持っておられ、入所後も引き続き利用されている。又、かかりつけ医からの紹介状をもらって他の病院に入院されても、ホームに帰って来られたら以前と同じように利用されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の状態に合った声掛けをしている。入浴や排泄時にはプライバシーに配慮し、傷つけるようなことは言わないようにしている。個人のカルテはその家族の見てもいいこととし、関係ない方には見せないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方に合った声掛けや説明をし、困難な方には、質問形式で応えてもらったりしながら、その人の考えや思いが少しでも引き出せるように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、その中でもするかしないか、行くか行かないかなど決めてもらっている。現在の食事時間や入浴時間は利用者全員と話し合い今のままでいいという結果である。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	殆どの方は2ヶ月に一回理容師さんが来て下さり、散髪をしていますが、散髪の制限はなく、家族と一緒に美容院に行かれる方もあります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、一緒に買い物に行ったり、皮をむいてもらったり、お茶の準備や片付けをしてもらったりしながら、生活していただいている。スタッフが強制することはない。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎朝牛乳を飲まれる方もあり、毎晩養命酒を飲まれる方もあります。乳製品はお腹の調子を崩し下痢をされる方もあるのでその人にあわせて違うもので代用したりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意が確実ではなくても約2時間に一回は便器に座ってもらっている。時々お腹の痛みを知らせる方は排便を予想してトイレに連れて行くようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後、口腔ケア終了後ゆっくりしてもらってから、バイタル等見合わせてから、本人の気持ち、タイミングを検討し実施している。入浴を嫌いな方もあるため、いかにしたら入ってもらえるかを勉強させてもらっている。入浴剤を使い最初は嫌だったけど、入ったら良かった。と行ってもらえるように心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中は10時のお茶の後レクの実施ではあるが同じテーブルに居てもしない人や、居眠りをする人いろいろです。一応声掛けを行います、強制的ではない。午後は昼寝をされる方、日向ぼっこをされる方、テレビを見ながらウトウトされる方いろいろです。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	演説が得意な方には若いスタッフに人生観を話してもらったり、来訪者に対してお話をしてもらったり、地域での催しがあるとき舞台の前で得意な歌をうたってもらったりしている。「生きているのも疲れるよ。」とのことであるが、○○何々があるから頑張らしよう。と次の目標が持てるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ち管理されている方はいらっしゃらないが、買い物等で必要な時は、ホームで立替をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気のいい日は外に行きませんか？と声をかけても「寒いから」とか「行き方がめんて」などと言われ外に行きたがりません。たまには、スタッフが一緒に行くよ。手をひっぱっていくこともあります。面会時に家族と一緒に散歩に行ったり、毎週外出される方もあります。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	秋に上の原に遠足に行ったり、今年は天気の関係でホーム内での花見となりましたが、城山への外出を計画したり、5月中旬には和気神社の藤の花を見に行く予定です。ホームと利用者の状況をみながら機会を作りたいと考えています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やハガキのやり取りに規制はなく、自由にさせていただいております。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間の設定はしておらず、常識の範囲内での面会をお願いしている。面会に来られる方は、本人さんのお部屋で過ごされる方もあったり、ホールで他の方ともおしゃべりされたり、自由に過ごされています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフはきちんと理解し危険な行為に対して、拘束をしないで何かいい方法はないかを職員会議等で話し合う。介助者の体格と、対象者の危険行為の種類や頻度等でやむを得ず拘束する場合には家族の同意と見直しを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	注意の必要な方は把握がなされている。しかし、最近では体力や下肢筋力の低下が顕著で自ら外に行きたいといわれる方が少なくなり、反対にどうしても、散歩に行ってもらえるかが重要となっており、日中、鍵を掛けたことはない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフが書き物をする時はカウンターで書くようにしている。この場所は、ホーム内全体を見渡せる場所であり、常に利用者の様子が分るようになっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は開所当時から保管場所が決められている。洗剤類か棚の中に保管すると共に洗剤類は誤って口に入れても大丈夫な物に変えた。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥の恐れのある方には個別のテーブルをつけ目の届く場所でゆっくり食べていただけるようにしたり、マニュアルを作ったりしている。又、避難訓練の実施や吸引の方法など勉強している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	色々な状況に対応できるようにマニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。69の項目と合わせ防止と対応を勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間想定、夜間想定での訓練を年2回実施している。災害時等駆けつけて下さる近所の住民の方の協力も確保されており、合同の訓練も近日中に計画しているところである。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時の状況をきちんと話し、理解が得られるようにしている。本人の状況も十分わかっておられる事もありリスクに対して納得を得やすい状況である。家族との会話の機会が多いのも理解が得やすい要因であると思われる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調の変化に注意している。異常はなくても様子観察を申し送り早期発見に努めている。又、変化については随時家族への報告をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテのお薬の説明書を綴じており、いつでも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態をチェックし、排便のないときは薬を使用したりしているが、なるべく薬に頼らないように牛乳を飲んでもらったり、水分を多く飲んでいただいたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時の後は、イソジンでうがいと義歯の洗浄を行っている。自分でできる人もスタッフが見守りをして確実に実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立や摂取量をきちんと付けている。4ヶ月に一回は栄養士さんに来てもらい、一緒に食事することで量や味付け、バランスを体験してもらい、事前に5～7日分の献立を写真つきで見ただきカロリーを計算してもらっている。咀嚼や嚥下に対しても細かくしたりして食べやすいようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作成し職員会議の場において、感染症及び食中毒の予防及び万延の防止の為に対策を検討する委員会で勉強している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板を肉用、魚用、その他に使い分けている。用具は使用した度に乾燥機にいれるようにし食材も、冷凍庫から出したものは必要な量だけ出してすぐに片付けたりしている。又、調理の前には石鹸で手を洗い消毒してから取り掛かるように指導している。又、中国製の加工食品はなるべく買わないように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲の環境にも恵まれ、庭には季節の花が咲き出入りしやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中からは季節の移ろいが見られている。施設特有の臭いや空気ではなく家庭の匂いであったり、生活の音であり、心地よく安心して生活ができていると思われる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でテレビをみたり、一人妄想にふけったり(本人の弁)民謡や歌を歌ったり、それぞれ好きに過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたってご家族に対しては、本人さんが今まで使っていたものを持ってきてくださるようお願いしている。入居時には何も無い状態でお貸ししており、何を持って来られるかはご家族にゆだねている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候のよい日はなるべく窓を開け換気を心がけている。冷暖房使用時においては時々窓を開けたり、ホーム内に空気清浄機を置き臭いがこもらないように注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方の部屋には、移動用手すりを設置して転倒を防いだり車椅子を使用しなければならなくても、生活できるようにバリアフリー化されている。入浴に関してもレベルに応じてシャワー用椅子を使い分けたり滑り止めのマットを敷いたりして少しでも残存機能が維持でき、又、発揮できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	いろいろな行動障害に対して、様子を見ながら助けが必要と思われる時には援助したり、分からないときには教えてあげたりしながら、少しでも不安なく生活できるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スロープや手すりを付けたりして、安全を確保しながら屋外への移動ができるようにしている。庭にはくつろげる椅子やパラソルが置いてあり、入居者をはじめ来訪者もゆっくりできるようにしてある。時には外でお茶を飲んだり食事をしたり、中には草を取ったりされる方もある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年10月に厚生省 九州厚政局と霧島市との合同による実地指導が行われた。霧島市では当ホームのみが九州厚政局の職員の指導を受けている。市役所の担当者によると、九州厚政局のリクエストとして、家庭的なホームを希望されたとのことで、霧島市の担当者としては、いい評判であることと家庭的であるとのことで当ホームを合同の実地指導のホームに選んでくださったとのことでした。当ホームは、日頃から大きなことはできないし又、入居者もご家族も毎日変化や刺激のある生活を望んでおられるわけではなく、毎日楽しくお友達と過ごして欲しい。ケガも無く元気で過ごして欲しいと望んでおられる方が殆どであることから、日々の生活が穏やかに過ごせるように支援することを大切にしています。又経営者、管理者においてもホームだけの情報では井の中の蛙になってしまうので、始良・伊佐地区のグループホーム連絡協議会の役員をして、会長をはじめ他のホームの役員とも交流を図り情報の交換やアドバイスがもらえるような関係を作ったり、夜勤やスタッフと同じローテーションに入り勤務することで働く側の気持ちや入居者の思いや行動障害等理解できるように努めたり、市からの要請で介護相談員の研修の受け入れ、中学生の職場体験の受け入れ、ボランティアグループの受け入れなど少しでも多くの外部の方がホームに足を運んでくださるように努めています。入院された方も、しばらく他の病院でリハビリを受けてからホームに帰ったらどうかとのアドバイスに対してもホームに戻って生活するほうがいいのことで退院したらすぐホームに戻ってられる方が多いのもご家族との信頼関係が築けているからではないかと思っています。